

代表質問

吉田 耕一 議員

新政会



本市の将来の人口規模は

Q 本市の将来の人口規模をどの程度にしたいと考えているのか。また、そのための取り組みは。

A 国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づくと、人口減少対策を講じない場合、本市の2060年の人口は3万人を下回るまで減少すると試算されています。これに対して、平成27年10月に策定した第1期総合戦略に基づき、取り組みを進めることにより2060年に将来展望人口を4万2千人と想定しています。今後は、第2期総合戦略に掲げる本市の強みを活かした施策の着実な推進により、人口減少の克服及び地域活力の向上を目指し、出生率の向上や2025年以降年間1000人の社会増を達成することにより、2060年において人口4万2千人を維持することを人口目標としていきたいと考えています。

(市長)



コミュニティの拠点となる複合施設とは

Q 市長が考える複合施設とはどのようなもので、どこに複合施設を建設するのか。また、いつ頃までに建設したいと考えているのか。

A 複合施設については、本市が目指す「共働のまちづくり」の実現に必要な施設と考えています。施設の内容等は、令和2年度から改修工事に着手することとしている市民ホールが、音楽ホールとしての役割を担うことから、既存施設との機能分担や個別施設の現状を勘案した上で、具体的な方向性について、令和2年中を目途に示したいと考えています。

また、整備の場所、時期については、市民ホールや中央公民館の動向等も踏まえ、将来のまちづくり全体を見据えながら、引き続き、あらゆる角度から検討していきたいと考えています。

(市長)



坂出環境センターの利用状況と今後の方向性は

Q 坂出環境センターの年間総埋立処理量は。また、使用可能期間経過後の方向性は。

A 平成30年度の年間総埋立処理量は3,425トンです。平成30年度の埋立量で計算しますと今後、およそ16年程度の残余容量があるものと推測していますが、残余容量については、今一度精査する必要があります。現在の第1期工事に係る埋め立てが完了し、さらに周辺用地を買収した上で、第2期工事を行うと、建設当初の予定では、15万6,500立方メートルの埋立容量が新たにできることから、さらに数十年は埋め立てが可能となります。

埋め立て完了後の跡地については、地元の坂出環境センター対策協議会の意向も伺いながら検討していきたいと考えています。

(市民生活部長)

質問の主な項目

- ・ 新型コロナウイルス感染予防対策について
- ・ マイナンバーカードの普及について
- ・ 医療行政について

旧庁舎の議場では、最後の定例会でした。

